

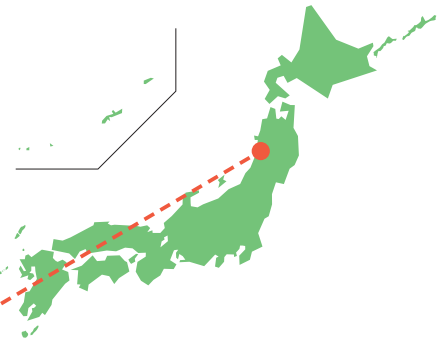
写真で見る

都市の変遷

今と昔の風景

地域の発展や変化にあわせて
移り変わってきたまちの姿。
今と昔を写真とともに振り返ります。

ゆりほんじょう
由利本荘市 (秋田県)



令和
5年
(2023年)



新しく生まれ変わった
羽後本荘駅周辺



建設部都市計画課
ささきひとし
佐々木日登志さん

伝統工芸品「ごてんまり」と自由通路で地域を活性化

県内最大面積を有する由利本荘市は、出羽富士とも呼ばれる霊峰「鳥海山」を源流とする「子吉川」が市内中心部を通り日本海へ注がれ、その流域は古くから舟運により栄えてきました。大正11年の鉄道開通とともに港周辺でのにぎわいは駅周辺部に移行されましたが、鉄道による駅東西の分断が課題となっており、令和3年に駅と合築された東西を結ぶ自由通路「ごてんまりロード」が完成したことで、交通結節点機能の強化とともに、新たなにぎわいや交流促進が期待されています。



昭和
40年代
(1960年代)

現在の2代前の羽後本荘
駅前周辺